

マルクス『資本論』発刊150年

第50回集中セミナー

学習テーマ

ヘーゲル論理学とマルクス

論理と現実、矛盾の理論

講師 牧野 広義・阪南大学名誉教授

日時 2017年5月07日(日)
13時~17時
受講料 2500円
定員 100名
会場 京都市職員会館「かもがわ」



Intensive Seminar Vol.50

◎第50回集中セミナー マルクス『資本論』発刊150年記念

ヘーゲル論理学とマルクス —論理と現実、矛盾の理論—

牧野 広義 (阪南大学名誉教授)

今年は『資本論』第1部発刊150年になります。今日、資本主義社会の矛盾が深刻になり、「資本主義の限界」が明らかになる中で、マルクスの『資本論』が注目されています。

マルクスは『資本論』の中で、弁証法を駆使して資本主義社会の分析を行い、将来社会への展望を論じました。しかしマルクスは弁証法をテーマとした本を書いていません。

マルクスは、エンゲルスへの手紙の中で、ヘーゲルの『大論理学』を読み直したことが経済学批判の仕事にも役だったと書いた後で、さらに次のように述べました。「ヘーゲルが発見はしたが、同時に神秘化してしまったその方法における合理的なものを、普通の人間にもわかるようにしてやりたいものだ」。しかしマルクスはこの仕事をする余裕はありませんでした。

とはいえ、『資本論』には、マルクスがヘーゲル論理学をどのように理解したか、それをどのように唯物論的に改作して利用したか、などが分かる箇所がたくさんあります。『資本論』の「第二版へのあとがき」で、マルクスはヘーゲル弁証法について次のように言っています。

「私は、自分があの偉大な思想家の弟子であることを公然と認め、また価値論に関する章のあちこちで、彼に固有な表現の仕方をことさら使用しさえした。弁証法がヘーゲルの手でこうむった神秘化は、彼が弁証法の一般的な運動形態をはじめて包括的で意識的な仕方で叙述したことを、決してさまたげるものではない。弁証法はヘーゲルにあっては逆立ちしている。神秘的な外皮の中に合理的な核心を発見するためには、それをひっくり返さなければならない」。

マルクスは、学生時代からヘーゲル論理学の研究に取り組んで、それを自分のものにしていました。私たちは、ヘーゲルの『大論理学』、『小論理学』や大学での「論理学講義」（これらをあわせて「ヘーゲル論理学」と言います）の言葉を、マルクスの『資本論』の言葉と対比したり、またマルクスがヘーゲルから引用した言葉を検討することによって、マルクスがヘーゲル弁証法の「合理的核心」をどこに見たのかがわかってきます。

今回の集中セミナーでは、ヘーゲル論理学のカテゴリー（基本概念）について、マルクスはそれをどのように理解して『資本論』などで活用したかを考えたいと思います。

第一のテーマは「論理と現実」です。先のマルクスの言葉にもあるように、ヘーゲルの観念論的な弁証法を唯物論的に「ひっくり返す」必要があります。そこでは、

「論理と現実」の関係のとらえ方が問題になります。

ヘーゲルは、自分の論理学を、「自然と有限精神を創造する以前の、神の国」だと言いました。このような神秘主義をマルクスは批判します。しかし、神が世界を創造するためには、世界の仕組みの論理的な把握が必要です。ここから、ヘーゲル論理学は、世界の弁証法的な構造を論じることになります。このようなヘーゲル論理学から、マルクスはどのようにして「合理的な核心」をつかんだのかを考えたいと思います。

第二のテーマは「矛盾の理論」です。ヘーゲルの弁証法においてもマルクスの弁証法においても、弁証法の核心は矛盾の把握にあります。マルクスは『資本論』の中で、「すべての弁証法の噴出源である、ヘーゲルの矛盾」と述べています。このような「ヘーゲルの矛盾」の意味を考えたいと思います。そして、ヘーゲルの矛盾を、マルクスはどのように批判的に継承したのか、そしてそれを資本主義社会の矛盾の解明にどのように生かしたのかを考えたいと思います。

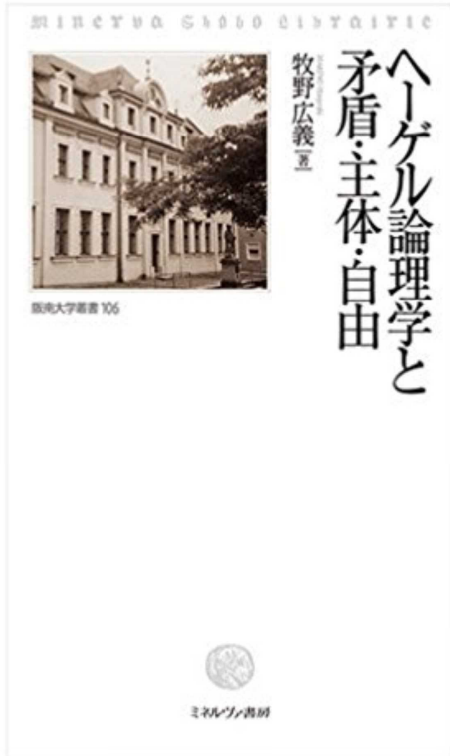
ヘーゲル論理学の言葉は難解ですが、マルクスの合理的な解釈を学ぶことによって、その意義が明らかになります。また、マルクスによるヘーゲル論理学の批判的継承を学ぶことによって、マルクスの弁証法への理解が深まります。私たち自身が弁証法的な思考を活かせるように、共に学びましょう。

内容紹介

ヘーゲル論理学の全体像を描き出し、その現代的意義を問う

内容（「BOOK」データベースより）

ヘーゲルの哲学体系の根幹をなすものであるにも関わらず、彼の論理学の全体像はこれまで十分に解明されてきたとは言い難い。本書ではまず『大論理学』、『小論理学』、『論理学講義』をテキストとしてヘーゲルにおける論理学の性格を明らかにする。そのうえで、その哲学の中心概念である「矛盾」、「主体」、「自由」の論理を考察し、『法の哲学』をも視野に入れて、ヘーゲル哲学の現代的意義を問います。



京都学習協の第50回集中セミナー 募集要項

- 申し込みは、このテーマを学びたいと思う方は誰でも参加できます。
- 申し込みは、「申込書」に必要事項を記入し申し込んでください。
FAXでも申込みができます（受講料は当日お支払いください）。
- 講義時間は、午後1時～5時（休憩も含まれます）
- 受講料は、2,500円です。（税込み）
- 会場は、「京都市職員会館かもがわ」

中京区土手町夷川上ル末丸町
電話 (075) 256-1307
※会場は現在要請中です

【申込先】

京都労働者学習協議会
上京区堀川丸太町西一筋目上ル
『京都学習会館』内
電話 (075) 841-8141
FAX (075) 821-3665



京都学習協の第50回集中セミナー 申込み日時 年 月 日

フリガナ

氏名: 年齢 才

現住所:

職場・学園:

労働組合名:

電話: 職場 自宅